

平成26年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	自転車等駐車場管理事業						担当部	都市建設部		
	会計区分	一般会計			事業類型	法定受託系	担当課	都市政策課			
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	交通政策係		
	総合計画 分野別計画	主目的	6 都市基盤		22 都市交通		1 より効果的・効率的な公共交通ネットワークを形成します				
		副目的									
	予算区分	款	2	項	8	目	3	大	4	中	1
	根拠法令・個別計画	小牧市自転車等の放置の防止等に関する条例									
	目的 (対象をどの様な状態にするのか)	各駅の市営自転車等駐車場の適切な管理と美観保持を通じて、自転車等駐車場の利用者が快適に利用できるようにする。									
	内容 (手段)	<p>間内、小牧口、小牧駅北・駅南、小牧原、味岡、田県神社前、桜井バス停、東田中、上末、中央道桃花台バス停の各自転車等駐車場において、シルバー人材センターに清掃整理等の管理を委託し、定期的に長期放置された自転車等の撤去を行った。 また、撤去した自転車の警察への盗難照会や防犯登録などの告示などを行った。</p> <p>&lt;平成25年度直接経費の内訳&gt;          (消耗品費) 1,280円 (印刷製本費) 43,050円 (電気料金) 746,237円          (水道料金) 18,659円 (修繕料) 31,500円 (役務費) 19,450円          (自転車等駐車場管理委託料) 12,466,632円          (自転車等駐車場設備保守管理委託料) 97,742円          (用地借上料) 1,370,332円 (下水道使用料) 9,042円</p> <p>&lt;平成26年度直接経費の内訳&gt;          (消耗品費) 150,000円 (印刷製本費) 50,000円 (電気料金) 826,000円          (水道料金) 38,000円 (修繕料) 1,208,000円 (役務費) 235,000円          (測量設計委託料) 1,200,000円          (自転車等駐車場管理委託料) 12,868,000円          (自転車等駐車場設備保守管理委託料) 827,000円          (用地借上料) 1,409,000円 (下水道使用料) 18,000円</p>									
	受益者負担	無									

		単位	H23決算額	H24決算額	H25決算額	H26予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	15,369	15,312	14,803	18,829	
		正職員	従事者数	人	0.10	0.10	0.10	0.10
			人件費	千円	526	526	526	526
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
	費用合計	千円	15,895	15,838	15,329	19,355		
対前年比	%		99.6	96.7	126.2			
財源	一般財源	千円	15,895	15,838	15,329	19,355		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	0	0	0	0		

業 績	活動指標名		単位	H23	H24	H25	H26
	収容可能台数	台	目標	2,743	2,743	2,768	2,768
			実績	2,743	2,768	2,768	
			目標				
			実績				
			目標				
			実績				
	成果指標名		単位	H23	H24	H25	H26
	自転車の処分台数	台	目標	—	—	—	—
			実績	931	863	1,079	
		目標					
		実績					

事業の自己評価	平成25年度の実施結果		事業の達成状況	
	事業実施における課題		利用者側にも、自分たちが利用しやすい駐車場であるように、マナーの向上を呼びかけるとともに、長期間放置されるような自転車を早期に発見・整理をする必要がある。	
	事業を縮小・廃止したときの影響		駐車スペースでない、場内の通路などへ自転車が駐車されたり、長期間にわたり放置されるような自転車のために、本来の駐車スペースが失われるとともに、利用者のマナーが低下し、快適で利用しやすい駐車ができなくなるため、縮小や廃止はできない。	
	平成26年度の改善内容	26年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	間内駅自転車等駐車場においては、恒常的に駐輪場から自転車等があふれている。そのため、本年度、測量設計委託を発注し、今後の自転車等駐車場の更なる整備に備える準備を整える。 また、引き続き放置自転車の、より早期の発見と整理を行うと同時に利用者へのマナー向上の呼びかけも継続して行う必要である。	
	平成27年度の事業の方向性	方向性の判定	拡大	対象の拡大や手段の充実等により、事業のボリュームを拡大すべきもの
		判定理由	間内駅自転車等駐車場の整備工事を行うため拡大とする。	
	27年度以降の改善案	自転車等の放置をしないように、また、利用者が利用しやすい駐車場であるように、年間を通し、マナーの向上を呼びかける啓発活動を行う。		

二次評価	方向性の判定	判定理由
	拡大	一次評価のとおり。